

まちの話題

新しく「民生委員・児童委員」 が加わりました



地域で生活上の悩みや福祉問題について相談を受けるなどの地域支援活動を行う民生委員・児童委員として新たに1名が委嘱され、10月11日に委嘱状伝達式が行われました。

このたび委員に就任したのは、森井正則さん(写真右)。幸地区の担当になります。就任にあたって森井さんは「西原に住んで24年間、いろんな方のお世話になった。そのお返しをする気持ちで、自分にできることを大事しながら明るく元気にがんばりたい。」と活動への抱負を述べました。※西原町の民生委員・児童委員は定数を満たしていません。随時募集していますので、関心のある方は福祉部福祉課(☎945-5311)へお問い合わせください。

西原クラブ(シニアソフトボール) に激励金を交付

第23回夏季シニアソフトボール大会に優勝した西原クラブが、9月に香川県で行われた「第26回全日本シニアソフトボール大会」(日本ソフトボール協会主催)に県代表として出場しました。出場にあたり、上間町長から西原クラブへ遠征費用などの助成として激励金が交付されました。交付を受けたチーム責任者の吉山弘さんは「全国に西原の名をとどろかせられるよう、がんばりたい。」と抱負を語りました。



「テニスの日」イベントを開催

9月23日の「テニスの日」にちなんだ記念イベント(町テニス協会主催・町教育委員会後援)が同日、西原町民テニスコートで開催されました。イベントには町内外から中高生を中心に約160名が参加。交流試合で親睦を深めたり、テニス教室を受講したりしてテニスを楽しみました。コートに置かれた的を狙ってボールを打つターゲットテニスのイベントでは、的にボールが当たるたびに歓声が上がりました。



公共下水道の早期接続を呼びかけ

公共下水道への接続促進を目指し、普及啓発の戸別訪問活動を、10月4日に実施しました。この活動は去年に続いて2回目となります。町役場の三役を含む管理職職員のほか、町管工事協同組合、下水道排水設備指定工事店が参加。未接続の世帯を訪問し、パンフレットを配布しながら下水道の接続を呼びかけました。

公共下水道は川や海など、公共用水域の水質改善を目的に平成8年に供用開始され、現在約32%が整備されています。しかし接続率は約45%と伸び悩んでおり、下水道の普及啓発が課題となっています。

出発式では町管工事協同組合の呉屋信秀理事長が「下水道の普及が進むと、川や海がきれいになる。美しいまちづくりのため、下水道の理解と認識の高揚を図りたい。」とあいさつしました。



佐久田さん、JICAボランティア としてニカラグアへ出発

西原町出身の佐久田園子さんが、JICAの主催する青年海外協力隊として中米のニカラグアへ派遣されるのを前に、9月20日に上間町長を訪問しました。佐久田さんは西原中の卒業生で、琉球大学で中学と高校の教員免許を取得し、アメリカへの留学経験があります。民間企業での勤務経験を経て、青年海外協力隊への参加が決定しました。

ニカラグアでは北部のオコタル市に滞在し、図書館で勤務する予定。青少年活動として現地の子どもたちやその家族を対象にさまざまな事業の支援活動を行い、教育や文化的な分野での活躍が期待されています。

派遣を前に佐久田さんは「地域の図書館を住民の交流の場として活用したい。学生時代にやっていたエイサーやダンスなどを取り入れ、ニカラグアの文化とチャンプルーさせて個性のある活動を展開したい。」と力強く抱負を語りました。



ニカラグアに旅立つ、佐久田園子さん(右から2番目)

アルゼンチンから西原町を訪問 各地で見聞を深める

アルゼンチンのコルドバ市で空手道場を運営し、空手の普及発展に貢献している宮里昌栄さん(字棚原出身)が、9月に家族や門下生19名を連れて来沖。9月18日に町役場を訪れました。

宮里さんは50年以上前にアルゼンチンで道場を開設。250名以上を指導し、支部を合わせると7万人以上の門下生を輩出しています。沖縄滞在中は県内道場との空手の交流や伝統文化、芸能などに触れ、坂田小の学校風景を見学するなどして沖縄での見聞を広めました。

沖縄を訪れた宮里さんは「50年以上離れても、故郷は懐かしい。いつも西原を思い、感謝しながら過ごしている。」と語りました。一行を迎えた上間町長は「宮里さんの功績は、空手の技術だけでなく精神性、人間性のためもの。沖縄空手の振興に寄与し、西原町としても大きな誇り。」と激励しました。



児童館で、パパと遊ぼう!

運動、スキンシップあそびで父と子の触れ合い、交流を図るとともに、父親どうしの子育て情報交換の場を提供することを目的に、西原町児童館3館合同文化講座が、9月8日に西原東児童館で開催されました。

講座には11組の父子が参加。講師のかけ声に合わせて、お父さんが子どもを抱えてジャンプしたり走ったりして親子のスキンシップを行いました。お父さんたちは疲れを見せながらも充実した時間を過ごし、子どもたちは日ごろ仕事で忙しいお父さんと一緒に笑顔で過ごしました。



「西原保育所」から「西原保育園」へ 社会福祉法人小橋川福祉会西原保育園の起工式を挙

町立西原保育所に代わる新しい認可保育園となる西原保育園の建設工事の起工式が、9月21日に挙行されました。

昭和48年に建てられた町立西原保育所は、財政的な課題や職員確保が見込めないなどの理由により平成25年3月末で閉所となります。それに伴い、県の安心こども基金事業を活用し、来年4月から認可保育園が新設されます。新しい認可保育園となる西原保育園は、これまでの町立西原保育所の60名定員から112名に拡充される予定で、待機児童の解消など、保育環境の改善が期待されます。

工事の着工にあたって上間町長は「苦渋の決断で公立の保育所を閉所し、民設保育園の認可化を決定した。待機児童の解消という大きな課題に対し、新しい保育園が建てられ、定員の拡充が図られることは本町の保育行政にとって大きな一歩。」と、新しい保育園に期待を寄せました。西原保育園の園長に就任する田中雄二さんは「これからより多くの子どもたちの成長に関わる。身の引き締まる思い。」と抱負を語りました。※西原保育園は(仮称)小川第二保育園として計画を進めていましたが、このたび西原保育園として、名称を決定しました。



西原小学校創立130周年・幼稚園 65周年記念に「旗頭」贈呈!

西原小学校の創立130周年と同幼稚園65周年を記念してオリジナルの旗頭が作られ、9月23日の西原小運動会で同小PTAから学校に贈呈されました。旗頭は、兼久と我謝の旗頭活動に携わっているPTAが中心となり、約2ヶ月間かけて製作されたものです。

製作に関わった迎里博隆さん(字兼久)は「いろいろな行事で子どもたちが旗頭を披露してくれるのが楽しみ。今後も伝統として受け継いでもらい、将来は青年会でも活躍してほしい。」と笑顔で話しました。運動会では、子どもたちによる旗頭の力強い演舞が披露され、父母から大きな声援と拍手が送られました。

